

医療相談室年間報告

(昭和55年1月～昭和55年12月)

足 利 量 子

はじめに

医療相談室の昨年1年間における業務状況の報告をまとめ、新病院移転での変化を検討し、今後の検討資料としたいと思う。

患者に対する相談援助

図1にみられる如く、相談援助は各科にわたっている。

昨年の傾向として、新病院移転後、患者増による、相談件数の増加がめだっている点と「市政だより」等の広報もあって、患者家族の直接相談室を訪ねる傾向が強まった。また院内からの紹介は主治医、ナースとなっているが、相変わらず問題が発生し、困難な状態になってからの連絡が多く、当院が多忙なための構造的問題ともみられるが、相談室の機能をよく院内職員に理解してもらい、

早期援助を開始すべく、システムの確立を検討する必要がある。

ボランティアの導入と家族会の成立

相談室の業務は、患者に対する相談援助にとどまらず、院内の諸々の医療遂行上の諸要件への対応も求められてくる。すでに、院内広報でお知らせした、小児病棟からの提案のあった、入院中の学齢期児童に対するボランティア、「スマール・エンゼル」の導入も、その例である。ボランティアの導入を単に、小児病棟の活動としてではなく、院内のコンセンサスを入れて実施したのは、画期的な事で恐らくあまり全国的にも例をみないのではなかろうか。これは、相談室の事業というより院内の姿勢として評価したい。

また、植物状態の患者を抱える家族から家族のまとまりの要として、家族会の設立の要望があつ

〈診療科別分類〉

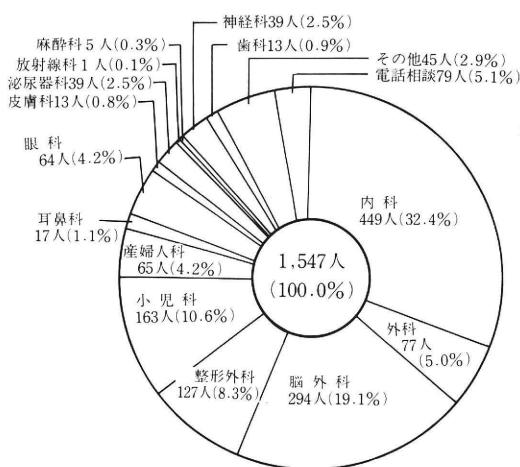


図 1

〈問題別分類〉

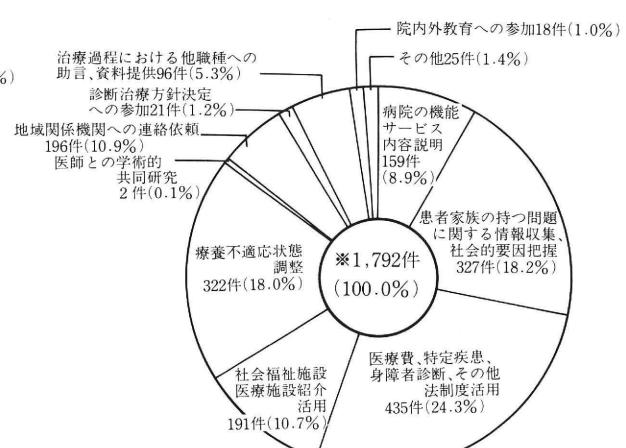


図 2

た。これも院内関係者の承認のもと「ゆずりはの会」として発足し、月1回、定例会を開催している。

個々の個別の要望はあっても、家族の集りで、評価、検討され、植物状態患者への対応がまとめられていく、この点に関しても、院内関係者が、よく協力してくれ、その事実を家族は、集りを持つことにより、理解し、スタッフとの信頼関係の樹立につながっていく。

教育活動

- (1) 東北福祉大学生に対する教育
講座名 医療社会事業
- (2) 仙台市立高等看護学院生に対する教育
講座名 社会福祉
- (3) 仙台市医師会高等看護学院生に対する教育
講座名 社会福祉
- (4) 東北大学医療技術短期大学部看護学科生に対する教育
講座名 総合看護の中での医療社会事業
- (5) 東北大学医学部新入生に対して
 - 救急医療の実態（患者家族の社会的背景について）
 - 植物状態患者の社会的背景
- (6) 実習生の指導

実習名

- 医療相談室実習
- 仙台市立高等看護学院生

論文発表、その他

- (1) 第11回日本看護学会、成人看護分科会シンポジスト、昭和55年9月、秋田
- (2) 第28回日本社会福祉学会シンポジスト、昭和55年11月、大阪
- (3) 東北大学医学部、病院管理学教室研究会、「病院と老人医療」シンポジスト、昭和55年12月仙台

おわりに

一年間の報告書を作成し、考察するに、新病院移転という病院の大事業があり、且、当室のスタッフにも異動その他があり、相変わらず、業務に追われている点がめだち、今後の反省の資料としたい。

その他、昨年の傾向として、東北大学医学部の学生が、この業務に関心を持ち、訪室の多かった点も特徴としてあげられる。

現代病院の在り方が検討されている昨今、それへの対応として、当室の業務の質の向上を、諸先生の御指導を仰ぎ、検討してゆきたい。

（昭和56年7月20日 受理）

第1回 CPC 昭和54年11月27日（火）

- ① Primary biliary cirrhosis
- ② Osteomyelitis Aplastic Anemia

内科 篠田 晋
内科 李 茂基